

平成30年度 事務事業評価シート

事務事業名		書道博物館管理運営						所管	文化産業観光部 文化振興課		
事務事業の概要	行政計画	事業NO.	67	計画事業名	文化施設の活用			事業の開始・終了年度			
	長期総合計画体系	[基本目標] I-3. 文化が息づく豊かな生活の創出 [小 柱] (4)文化に親しむ環境づくり [施 策] ①文化に触れる機会の充実									[事業開始]
	根拠法令等	条例・規則	〔法令等名〕		東京都台東区書道博物館条例、同施行規則				[終了予定]	- 年度	
	事業対象	直接の対象 : 区民をはじめ、広く一般 最終的な対象 : 同上									
	事業目的	画家であり、書家でもあった中村不折が台東区内に開設した書道博物館は、開館以来60年にわたり中村家が運営してきたが、平成7年に区が寄贈を受けた。不折の作品及び書道に関する収集品を広く一般に展示公開し、区民文化の振興を図る。									
	事業内容 [29年度]	<ul style="list-style-type: none"> 施設の維持、管理 資料の保管及び展示 資料に関する調査及び研究 									
	委託の有無	全部委託(指定管理)	委託内容		(公財)台東区芸術文化財団を指定管理者とし、管理運営を委託している。						
補助金の有無	国・都										
事務事業の実績	種 別	指標の名称		単位	31年度 目標値	27年度 実績	28年度 実績	29年度 実績 目標値 達成率			
	活動指標	開館日数		日	274	277	283	284	272	104.4%	
	成果指標	入館者数		人	15,500	15,400	15,600	16,457	15,000	109.7%	
	決算額 (単位:千円)					27年度		28年度		29年度	
	事務事業コスト (単位:千円)	人にかかるコスト(人件費など)				1,925		1,427		1,927	
		物にかかるコスト(物件費・維持補修費)				32,536		34,659		37,057	
		その他のコスト(扶助費・補助費など)				1,922		8,424		0	
		総経費				36,383		44,510		38,984	
	財源項目 (単位:千円)	受益者負担額(使用料・手数料・負担金など)				5,652		4,951		5,608	
		その他特定財源(国や都の支出金・財産収入など)				2,138		2,804		1,731	
一般財源(区負担額)				28,593		36,755		31,645			
前回評価から29年度に改善した事項	歴史上の人物の筆跡を特集する企画展を夏休み時期に行い、学校等からの問い合わせ対応や10名以上の団体の館内案内を柔軟に行った結果、学生や若年層の集客が増加し、後期の企画展の入館者数増加にもつながった。										
評価の視点	評価	評価の理由									
	必要性	3	重要文化財をはじめとする中国及び日本の書道史研究上貴重なコレクションや、中村不折氏自身の作品を、都指定の史跡である建物とともに区が中村家から寄贈を受けた経緯があり、引き続き区立の文化施設として区民をはじめ広く一般に公開する必要がある。								
	効率性	3	国庫補助金や都補助金を活用し、経費を最小限にとどめながら、修復資料の保存と展示公開に努めている。								
	手段の適切性	3	指定管理者の専門性を活かした魅力ある展示を行い、固定客を確保している。本区の文化施設では、年間パスポートによる入館者数が最も多く、リピーターも多い。								
目的達成度	4	休館前の特別展では、東京国立博物館・朝倉彫塑館と連携し、他の博物館や地域からの来館者を多く集め、目標値を達成した。また、平成30年度に行う空調機器等更新工事に伴う休館について広く周知することにもつながった。									
[総合評価] ※上記4つの視点を踏まえ、事業全体を評価。区民生活への影響を十分考慮すること。							今後の方向性				
補助金を活用した効率的な資料修復を実施し、計画的な資料展示を行っている。施設維持管理の面では、30年度に空調設備やLED照明への更新工事を実施し、ランニングコストの削減及び環境負荷の低減並びに展示・保管環境の維持向上を図る必要がある。また、工事に伴い5か月休館するため、休館中及び休館後において効果的なPRを実施する予定である。							維持		拡大 改善 維持 縮小 廃止・終了		